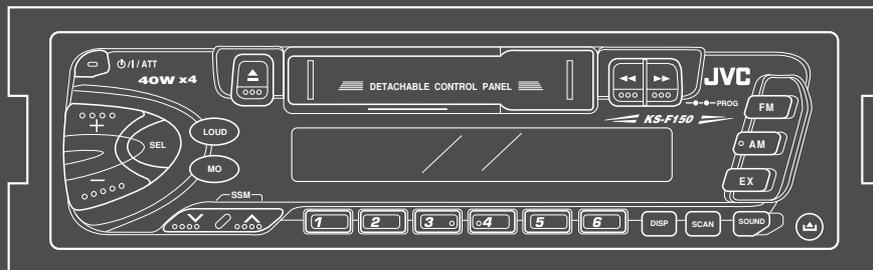


取扱説明書

JVC KS-F150

カセットレシーバー



— お買い上げありがとうございます —

ご使用前にこの「取扱説明書」と「取付説明書」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
そのあと保証書と一緒に大切に保管し、必要なときにお読みください。

目次

- 主な特長…………… 2
- 安全上のご注意…………… 3～7
- 各部の名前と働き…………… 8～11
- 音量・音質の調節…………… 12～13
- 時計の合わせかた…………… 14
- コントロールパネルの着脱…………… 15
- ラジオを聞く…………… 16～19
- テープを聞く…………… 20～21
- お手入れ…………… 22
- 正しくお使いいただくために…………… 23
- こんなときは…………… 24
- 保証書とアフターサービス…………… 25
- 主な仕様…………… 26
- 用語索引…………… 27

主な特長

- 最大出力40W×4chハイパワーアンプ内蔵
ステレオチャンネル
- SSM搭載チューナー
 - ・ HS-II (高感度) チューナー
 - ・ FM放送に限りSSMによる放送局のメモリーが可能
 - ・ 24局プリセット (FM → 6×2局、AM → 6×2局)
- 1, 620kHz (道路交通情報) などがメモリーできるEX エキストラ ボタン
- オートリバースメカニズム
- マルチ電子コントロール (音量・音質)
- 音楽に合わせて選べるSCM (サウンドコントロールメモリー)
 - ・ ビート BEAT / ポップ POP / ソフト SOFT
- 1 プリアウト (RCAピン)

安全上のご注意

—はじめにお読みください—

絵表示について

この取扱説明書には、いろいろな絵表示が記載されています。これらは、製品を安全に正しくお使いいただき、人への危害や財産への損害を未然に防止するための表示です。絵表示の意味をよく理解してから本文をお読みください。



- この表示の注意文を無視して、誤った取扱いをすると、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

●絵表示の説明

注意をうながす記号



一般的注意



感電



指をはさまれないよう注意

行為を禁止する記号



禁止



分解禁止



接触禁止



水ぬれ禁止



- この表示の注意文を無視して、誤った取扱いをすると、障害を負ったり物的損害が想定される内容を示しています。

行為を指示する記号



一般的指示

安全上のご注意(つづき) —はじめにお読みください—

警告

■本機はDC12Vマイナスアース車専用です。



・大型トラックや寒冷地仕様のディーゼル車などの24V車で使用しないでください。火災などの原因となります。

■配線作業中は、バッテリーの^{マイナス}端子を外してください。



・ショート事故による感電やけが、火災の原因となります。

■本機を、前方の視界を妨げる場所やステアリング、シフトレバー、ブレーキペダル等の運転操作を妨げる場所など運転に支障をきたす場所、同乗者に危険を及ぼす場所には取り付けしないでください。



・交通事故やけがの原因となります。

■車体に穴を開けて取り付ける場合は、パイプ類、タンク、電気配線などの位置を確認の上、これらと干渉や接触することがないように注意して行ってください。



・交通事故や火災の原因となります。

■車体のボルトやナットを使用して本機を取り付ける場合は、ステアリング、ブレーキ系統、またはタンクなどの保安部品のビスは絶対に使用しないでください。



・これらを使用しますと制動不能や発火の原因となります。

■車体のボルトやナットを使用してアース線を接続するときは、ステアリングやブレーキ系統等の保安部品のビスは絶対に使用しないでください。



・事故などの原因となります。

警告

- コード類は、取付説明書または取扱説明書の指示に従い、運転操作の妨げとならないよう、まとめておくなどしてください。



- ・ステアリングやシフトレバー、ブレーキペダルなどに巻き付くと事故の原因となります。

- 電源リード線の被覆を切って、他の機器の電源コードを接続することは絶対にお止めください。



- ・リード線の電流容量をオーバーし、火災・感電の原因となります。

- 本機を分解したり、改造しないでください。



分解禁止

- ・事故・火災・感電の原因となります。

- 自動車を運転中に音量調節等の操作をしないでください。



- ・このような操作は、必ず安全な場所に車を停車させてから行ってください。

- 音が出ないなどの故障状態で使用しないでください。



- ・事故・火災・感電の原因となります。

- ヒューズを交換するときは、必ず規定容量(アンペア数)のヒューズをご使用ください。



- ・規定容量以上のヒューズを使用すると、火災の原因となります。

- 万一、異物が入った・水がかかった・煙が出る・変な匂いがするなど異常が起きましたら、直ちに使用を中止し、必ずお買い上げの販売店にご相談ください。



- ・そのままご使用になると事故・火災・感電の原因となります。

安全上のご注意(つづき) —はじめにお読みください—

⚠ 注意

■本機の取付・配線には、専門技術と経験が必要です。



・安全のため必ずお買い上げの販売店に依頼してください。

■必ず付属の部品を指定通り使用してください。



・指定以外の部品を使用すると、機器内部の部品をいためたり、しっかりと固定できずに外れたりして事故やけがの原因となることがあります。

■雨が吹き込むところなど、水のかかるところや湿気やほこりの多いところへの取付は避けてください。



・本機に水や湿気、ほこりが混入しますと発煙や発火の原因となることがあります。

■振動の多いところなど、しっかりと固定できないところへの取付は避けてください。



・外れて事故やけがの原因となることがあります。

■本機の通風孔や放熱板をふさがないでください。



・通風孔や放熱板をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

■本機を不安定なところに取付けないでください。



・正しい設置を行わないと、事故や故障の原因となることがあります。

■正規の接続を行わないと、火災や事故の原因となることがあります。



・接続が終わったら車のブレーキランプ、ホーンなどが正常に動作することを確認してください。

■車体やねじ部分、シートレール等の可動部に配線をはさみ込まないように注意してください。



・断線やショートにより、事故・感電・火災の原因となることがあります。

⚠ 注意

- 運転中の音量は、車外の音が聞こえる程度でご利用ください。



・ 車外の音が聞こえない状態で運転すると、事故の原因となることがあります。

- 本機を車載用として以外は使用しないでください。



・ 感電やけがの原因となることがあります。

- カセットテープ挿入口に異物を入れないでください。



・ 火災や感電の原因となることがあります。

- カセットテープ挿入口に手や指を入れないでください。

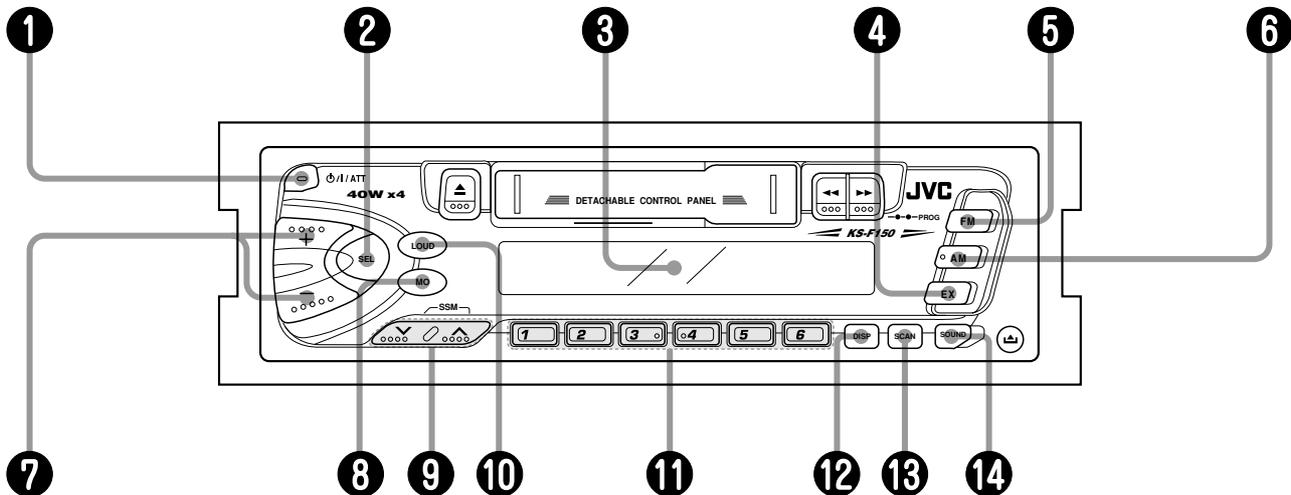


・ けがの原因となることがあります。

指をはさまれないよう注意

各部の名前と働き(1)

— 共通部分およびラジオを聞くときの働きです。 —



1 アッテネーター 電源/ATTボタン

電源の「オン」↔「オフ」に使用します。→12ページ参照
「ポン」と推すと音量を一時的に下げることができます。

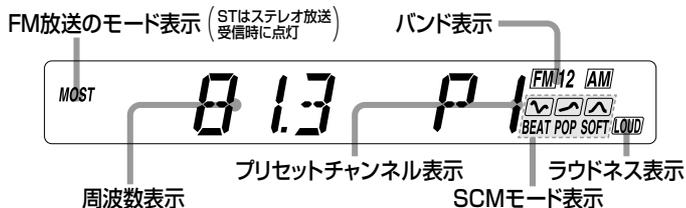
2 セレクト SELボタン

音量・音質調節のモードが選べます。押しごとに

バス トレブル フェーダー バランス
BAS → TRE → FAD → BAL
と変わります。
ボリューム VOL

2秒以上押しと時計合わせができます。→14ページ参照

3 表示窓(ラジオのとき)



4 エキストラ EXボタン

バンドに関係なく放送局を1局だけメモリーして呼び出すことができます。→19ページ参照
電源を入れることもできます。

5 FMボタン

ソース(音源)を「ラジオ」のFMにしたり、FMのバンド(**FM1**または**FM2**)を選ぶことができます。電源を入れることもできます。→19ページ参照

6 AMボタン

ソース(音源)を「ラジオ」のAMにしたり、AMのバンド(**1 AM**または**2 AM**)を選ぶことができます。電源を入れることもできます。→19ページ参照

7 +、-(音量)ボタン

電子ボリュームの音量が調節できます。→12ページ参照
時計を合わせる時にも使います。

8 モノラル MOボタン

FMステレオ放送が雑音で聞きにくいとき使います。
→18ページ参照

9 ストロング ステーションメモリー 選局ボタン(∨、∧)/SSMボタン

放送局を選局するとき使います。→16ページ参照
∨と∧ボタンを2秒以上同時に押すと、電波状態の良いFM放送の放送局を、自動的にプリセットボタンにメモリーすることができます(SSM)。→17ページ参照

10 ラウドネス LOUDボタン

小音量時の低音、高音を増強するとき使います。
→13ページ参照

11 プリセットボタン(☐～☐)

放送局をメモリー(記憶)したり、メモリーした放送局を聞くとき使います。FM、AMともバンドごとに6局ずつメモリーできます。→18ページ参照

12 ディスプレイ DISPボタン

表示窓の表示を変えるとき使います。
「ソース(音源)表示または時刻表示」が選べます。

13 スキャン SCANボタン

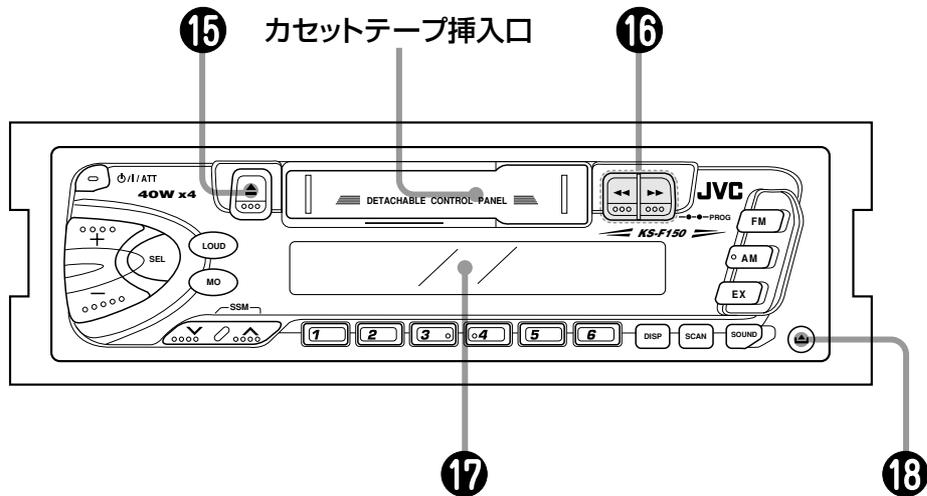
放送局を探するとき使います。スキャン選局になります。
→17ページ参照

14 サウンド SOUNDボタン

聞きたい音楽に合わせて音質のモードを選びます。→13ページ参照

各部の名前と働き(2)

— テープを聞くときの働きです。 —



ご注意

- テープが入っていると、ソース(音源)を「ラジオ」にすることはできません。ラジオを聞くときは、テープを取り出してください。

15 ▲(テープ取出し)ボタン

カセットテープの取り出しができます。エンジンキーが「OFF」のときや電源が切れているときでも取り出せます。→21ページ参照

16 ◀▶ボタン

テープを巻戻したり早送りするとき使います。→21ページ参照。

◀▶と▶▶を一緒に押すと、テープの走行方向を変えることができます(PROG)。→24ページ参照

17 表示窓(テープのとき)

テープ走行方向表示(フォワード方向)

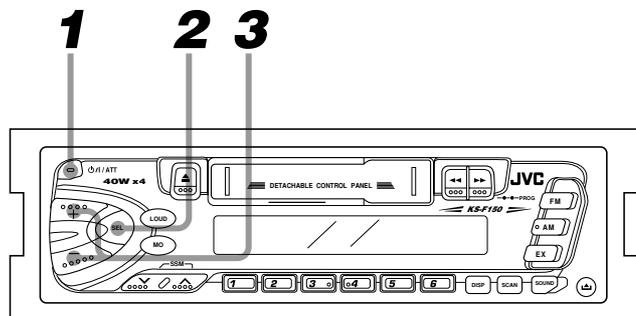


テープ(ソース)表示

18 コントロールパネル取出しボタン(▲)

コントロールパネルを外すとき押します。→15ページ参照

音量・音質の調節



〈お知らせ〉

- 調節したレベルはメモリー（記憶）されます。
電源を切っても次に電源を入れたときは、電源を切る前のレベルが表示されます。
- フェーダー調節は4スピーカー接続のときのみ調節してください。

1 電源/ATTボタンを押して電源を入れる (HELLOが表示されます)



電源/ATT

・電源を切るときは、1秒以上押しします。
(SEE YOU表示のあと電源オフになります)

・「ボン」と押したときは、ATTになり音量が一時的に下げられ、ATT表示が点滅します。もう一度押しすと元の音量に戻ります

2 SELボタンを押して調節したいモードを選ぶ



・「ボン」と押す

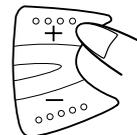
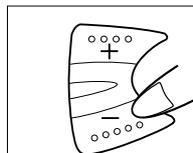
・「ボン・ボン」と押すごとに表示窓に

BAS → TRE → FAD → BAL
↑ VOL ↓

と変わります。ただしVOL(音量)調節のみの場合、この操作は、必要ありません。直接+または-(音量)ボタンで調節できます。

3 +または-(音量)ボタンを押して調節する

・調節したレベルが表示窓に表示されます。



VOL (音量)	音量が下がる	音量が上がる
BAS (低音)	低音が減衰する	低音が強調される
TRE (高音)	高音が減衰する	高音が強調される
FAD (フェーダー)	フロントの音量が下がる	リアの音量が下がる
BAL (バランス)	右チャンネルの音量が下がる	左チャンネルの音量が下がる

● 音量・音質の初期設定状態と調節範囲

	初期設定	調節範囲
VOL(音量)	15	00~50
BAS(低音)	00(フラット)	-6~+6
TRE(高音)	00(フラット)	-6~+6
FAD(フェーダー)	00(センター)	リア フロント R 6 ~ F 6
BAL(バランス)	00(センター)	レフト ライト L 6 ~ R 6

・調節が終わってから5秒後に、表示窓は前のソース(音源)表示に戻ります。

● ラウドネスコントロールについて



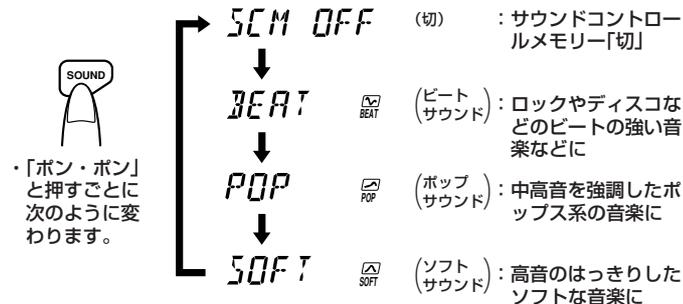
お買い上げ時は、ラウドネス「オン」に設定されており表示窓に**LOUD**が表示されます。
小音量時の低音、高音が増強され聞きやすくなります。

・押すごとに「オン↔オフ」になります。

LOUD ON ↔ **LOUD OFF**

SOUNDボタンの使いかた

SCM(サウンドコントロールメモリー)を使うと、お聞きになる音楽にあわせて音質が自由に選べます。

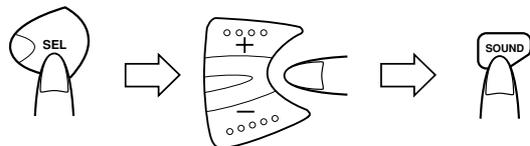


● SOUNDボタンのメモリー内容を変える

ビート、ソフトおよびポップサウンドは、音質が任意に調節できます。ラウドネスの「オン/オフ」も一緒にメモリーできます。

例：ビートサウンドの調節

SOUNDボタンを押して「BEAT」にしてから…



・BASまたはTREを選ぶ。

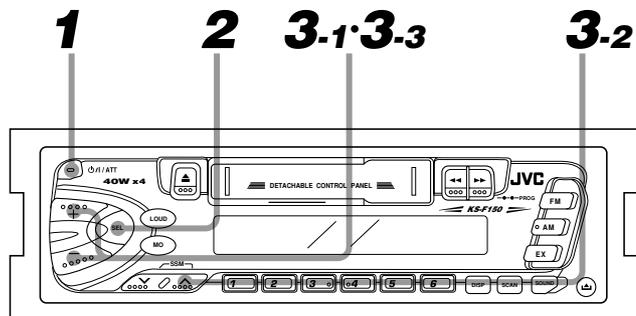
・音質を調節する。ラウドネスを「オン↔オフ」するときは、LOUDボタンを使います。

・「BEAT」表示が点滅するまで(2秒以上)押す。

(LOUD表示はメモリーのと
き消えますが記憶されます)

時計の合わせかた

— 本機に内蔵の時計を現在時刻に合わせておきます。 —



1 〇/I/ATT (電源) / ATT ボタンを押して電源を入れる (HELLOが表示されます)



・電源を切る前のソース(音源)が表示されます。

2 SEL ボタンを2秒以上押して「CLOCK H」を表示させる



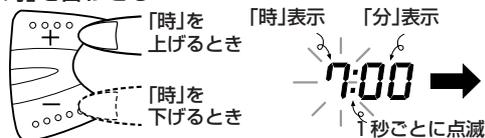
→ CLOCK H

・2秒以上押す。
・「CLOCK M」の表示が出たときは、∧ (または ∨) ボタンを押して選びます。

3 + または - (音量) ボタンと ∧ ボタンで現在時刻に合わせる (時刻表示点滅中に操作します)

例：7時30分に合わせるとき(12時間表示方式です)

「時」を合わせる



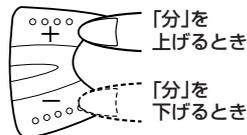
(3-1)

「CLOCK M」を表示させる



(3-2)

「分」を合わせる



(3-3)

- ・時刻合わせが終わったあと、15秒で自動的に元のソース(音源)表示に戻ります。すぐに戻りたいときはSELボタンを「ボン」と押します。
- ・時刻を合わせ直すときも2~3の操作をします。
- ・バッテリーの交換等でメモリー回路への電源供給が途切れると、設定した時刻は取り消されます。もう一度時刻合わせをしてください。

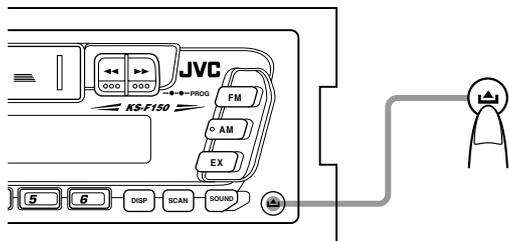
コントロールパネルの着脱

コントロールパネルを外す

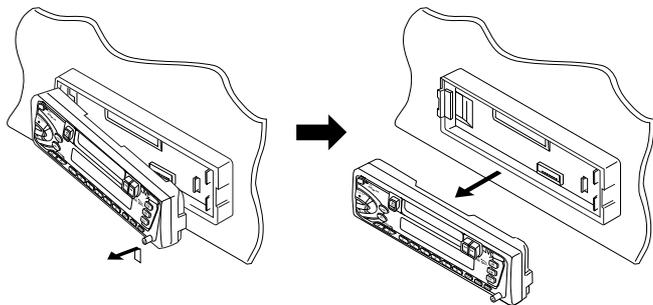
- ① 電源(電源)/ATTボタンを1秒以上押して電源を切る



- ② コントロールパネル取出しボタン(▲)を押す

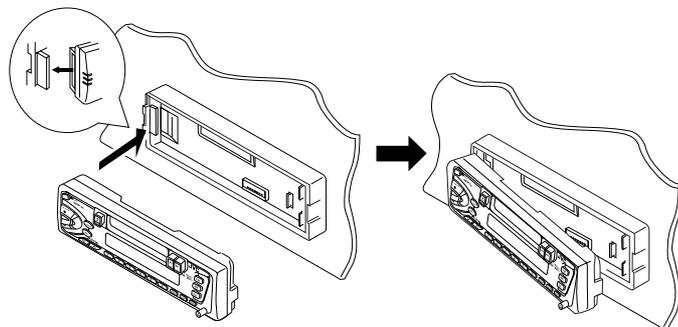


- ③ 前に押し出されたコントロールパネルを外す

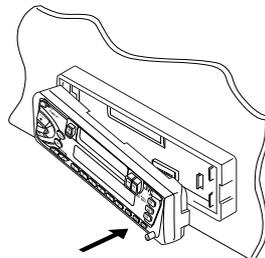


外したコントロールパネルを元に戻す

- ① コントロールパネルの左側を本体に合わせて入れる



- ② コントロールパネルの右側を「カチッ」と音がするまで押す

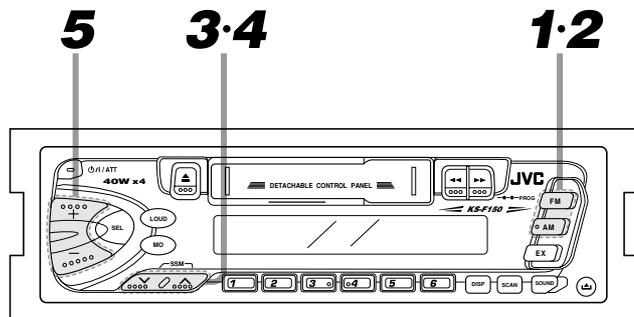


ラジオを聞く

— 番号順に操作します。 —

マニュアル選局

電波の弱い放送局を受信したり、聞きたい放送局の周波数が分かっているときなどに使います。



● マニュアル選局のモードは…

選局の操作から5秒後に、マニュアル選局のモードは自動的に解除されます。シーク選局(➡16ページ参照)のモードになります。

【注意】

- テープが入っていると、ソース(音源)を「ラジオ」にすることはできません。あらかじめテープを取り出しておいてください。

1 FMまたはAMボタンでソース(音源)を「ラジオ」にする➡電源が入ります



・電源が入ると自動的に前の放送局を受信できます。
(FM放送の場合)
FM1または**FM 2**
が表示されます

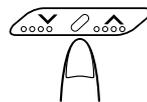
➡
・表示窓にバンドと周波数が表示されます。

2 FMまたはAMボタンでバンドを選ぶ



・押すごとにFM放送は
FM1 ↔ **FM 2**
AM放送は
1 AM ↔ **2 AM**
と変わります。
・AM放送はモノラル受信です。

3 選局ボタン(∧または∨)を1秒以上押し続けてマニュアル選局のモードにする



・選局ボタン(∧または∨)を1秒以上押し続けて表示窓に「M」を点滅させます。

4 選局ボタン(∧または∨)で放送局に合わせる

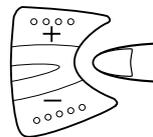


周波数が
下がる

周波数が
上がる

- ・1回押すとFMは0.1MHz、AMは9kHzずつ移動し、押し続けると連続して変わります。

5 +または- (音量) ボタンで音量を調節する



SSM(ストロングステーションメモリー)の使いかた

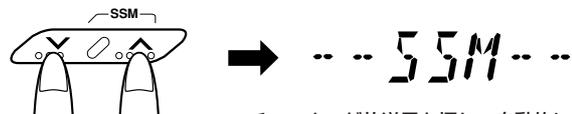
チューナーが自動的に電波の強いFM放送の放送局を、周波数の低い順に6局までメモリーしてくれます。(AM放送はできません)
旅行先などで放送局を探すときに便利です。

●操作例：FM 1 にメモリーするとき

1 FMボタンでバンドを選ぶ(FM 1にする)



2 選局ボタンの△と▽を同時に2秒以上押す



同時に2秒以上押す。

・チューナーが放送局を探し、自動的に電波の強い放送局を、周波数の低い順に、プリセットボタンの(1)～(6)にメモリーしていきます。(前のメモリー内容は取り消されます)

3 放送局が6局メモリーされるとプリセット1の表示になります

・プリセットボタン(1)～(6)を押して聞きたい放送局を選びます。
(放送局が6局より少ないときは、前のメモリー内容が残ります)

スキャン選局



SCANボタンを押すと、自動的に周波数が高い方に移動して放送局を探します。放送を受信するごとに表示の周波数が点滅し、約5秒間モニターしていきます。聞きたい放送局のところでもう一度、SCANボタンを押すとその放送を継続して聞くことができます。

ラジオを聞く(つづき) — 番号順に操作します。 —

プリセット選局

本機は、周波数を記憶しておくメモリー回路が内蔵されていますので、いったんメモリーしておけばあとはプリセットボタンを押すだけで正確な放送局の呼び出しができます。

- 操作例：FM放送の81.3MHzにある局をプリセットボタンにメモリーするには…

1 FMボタンで「FM1」を選ぶ → **FM1**

2 選局ボタン(∧または∨)で希望の放送局に合わせる

3 プリセットボタンのを2秒以上押す



プリセットボタンと同じチャンネル数字が点滅するとメモリーされます。

- ・バンドごとに6局ずつメモリーできますので、上記の操作例を参考にお好きな順序でプリセットボタンにメモリーしてください。
AM放送の場合でも同じ手順でメモリーできます。

ご注意

- バッテリーの交換等でメモリー回路への電源供給が途切れるとメモリーした局や時刻の設定は、すべて取り消されます。このようなときはもう一度メモリー操作と、時刻合わせをしてください。

シーク選局(自動選局)

「M」が表示窓に点滅表示されてないときは、選局ボタン(∧または∨)を「ポン」と押すだけでチューナーが自動的に放送局を探してくれます。これをシーク選局(自動選局)といいます。希望する放送局の周波数を正確に覚えていないときなどにお使いください。

例：FM放送のとき



モノラルMOボタンの使いかた



FMステレオ放送受信時に電波状態が悪くて雑音が多いとき、このボタンで切れます。表示窓に「MO」が表示されモノラル受信モードになり、聞きやすくなります。

電波状態が良好になったら「ST」表示に戻してお使いください。

EXボタンの使いかた

プリセット選局は、バンドごとに6局ずつメモリーできますがさらに、EXボタンにはバンドに関係なく1局メモリーできます。

例：道路交通情報を聞くため1,620kHzをメモリーする

1 AMボタンを押してバンドを「AM」にする



・1 **AM**または2 **AM**を選びます。

2 選局ボタン(∨または∧)を押して1,620kHzに合わせる

3 EXボタンを2秒以上押す



・2秒以上押す。

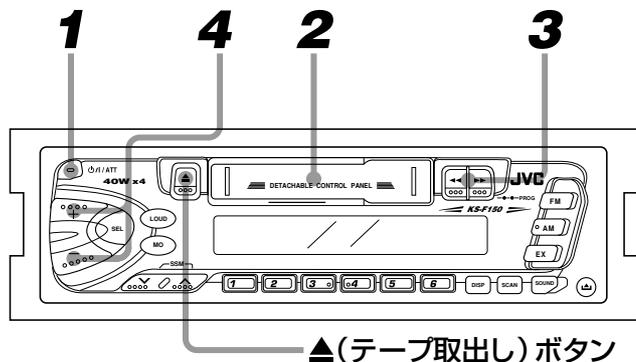
点滅するとメモリーされます。

- 高速道路などの特定地域で道路交通情報を聞きたいときは、EXボタンを押します。FM放送(またはAM放送)を聞いていてもワンタッチで1,620kHzを受信することができます。なお、テープを聞いていたときは、▲(テープ取出し)ボタンを押してからEXボタンを押してください。

- お買い上げ時は、FM76.0MHzになっています。

テープを聞く

— 番号順に操作します。 —



使えるカセットテープは

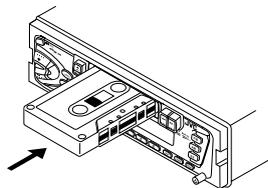
本機はノーマルテープタイプ(TYPE I)専用です。
 ハイポジションテープ(TYPE II)やメタルテープ(TYPE IV)は、音質が変わりますのでお勧めできません。

		再	生
ノーマルテープ	(TYPE I)	○	
ハイポジションテープ	(TYPE II)	×	
メタルテープ	(TYPE IV)	×	

1 電源(電源)/ATTボタンを押して電源を入れる
 (HELLOが表示されます)

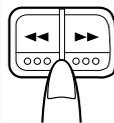


2 カセットを入れる



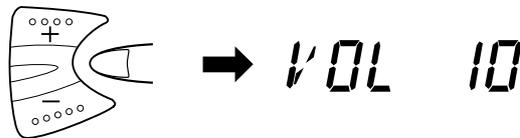
- ・ノーマルテープタイプ(TYPE I)専用です。
- ・ソース(音源)は「テープ」になります。表示窓に「TAPE」と再生方向が表示されます。

3 ◀◀と▶▶ボタンを同時に押して聞きたい面に合わせる



- ・上の面 (フォワード方向)の再生 : **TAPE** ▶▶
 - ・下の面 (リバース方向)の再生 : **TAPE** ▶▶
- ・押すごとに交互に変わります。 リバース方向の表示

4 +または- (音量) ボタンで音量を調節する



テープを早送りしたり巻戻す

	・テープを巻戻す 巻き始めまで戻ると、その面の再生が始まります。	・テープを早送りする 巻き終わりまでは早送りすると、反転してその面の始めから再生になります。
フォワード方向		
リバース方向		

- 動作の途中で再生状態にしたいときは、◀◀と▶▶ ボタンを同時に押します。
- 早送りや巻戻し動作中は、TAPE表示が点滅します。

テープを取り出す



▲(テープ取出し)ボタンを押します。ソース(音源)が「ラジオ」になります。本機はエンジンキーが「OFF」のときでもテープが入っていれば、▲(テープ取出し)ボタンでテープが取り出せます。

ご注意

- テープが入ったままでは、ソース(音源)が「ラジオ」にはなりません。聞き終わったら、必ずテープを取り出してください。

カセットテープの取り扱いかた

- ・テープにたるみがありますと、巻き込んだり、故障の原因になります。使用する前に右図のようにしてたるみを取り除いてください。
- ・テープを引きだしたり、テープ面にふれないでください。
- ・C-120などの長時間テープは薄いため、こきざみな走行や停止などをくり返すと、テープが機械の内部に巻き込まれることがありますのでご注意ください。



カセットテープの保管

- ・カセットテープはケースなどに納め、次のような場所は避けて保管してください。
- ・直射日光の当たる所
- ・ホコリや湿気の多い所
- ・スピーカーの上など磁気の影響を受けやすい所

〈お知らせ〉

- 本機は、テープ再生中にエンジンキーを「OFF」にするとそのままの状態でもテープも停止します。エンジンキーを「OFF」にする前にテープを取り出しておいてください。

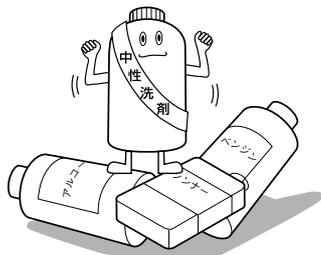
お手入れ

本体の清掃

パネル面が汚れたら柔らかい布で**からぶき**してください。
汚れがひどいときは、水または中性洗剤を少し布につけてふき、あとは**からぶき**してください。

ご注意

- シンナーやベンジン、アルコールなどの化学薬品でふいたり、殺虫剤をかけないでください。変色したり表面の仕上げをいためることがあります。



ヘッド部の清掃

ヘッドは音をひろい出す大切な部分です。

ヘッドが汚れると

- 音質が悪い。
- 音が小さい。
- 音がとぎれる。

などの症状がでます。

症状がでてくる前に(およそ10時間使うごとに)、別売りのオートヘッドクリーナー「CK-6型」を使ってヘッド部を清掃してください。詳しくはオートヘッドクリーナーの説明書を参照してください。



正しくお使いいただくために

●本機はDC12V、マイナスアース車専用です。大型トラックなどの24V車には使用できません。

●スピーカーはアンプの出力(フロント 40W/リア40W)に対し、入力に十分余裕のあるもの、インピーダンス4～8Ωのものをお使いください。

●次のような場所は避けて取り付けてください。

- ・直射日光の当たる場所、ヒーターの熱風を直接受ける所など、温度が極端に高くなる場所
- ・雨が吹き込む所や水がかかったり、湿気の多い所
- ・ほこりの多い所

●安全運転のために…

- ・運転中は車外の音が聞こえる程度の音量に調節してお楽しみください。また操作は、必ず安全な場所に停車させてから行ってください。
- ・ステレオの音量は、あなたの心がけ次第で大きくも小さくもなります。お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

●車内の温度は…

真夏の炎天下や冬期低温下で長時間駐車した後に、テープやラジオを聞くとときは、車内が常温に近くなるまでお待ちください。
(使用温度範囲：0℃～+40℃)

●バッテリーの過放電を防ぐため、エンジン停止中やアイドリング中は、大きな音量で長時間使用しないでください。

●外国での使用は…

本機は日本国内用です。外国での使用はできません。

●スピーカーコードの接続について

ビティール
本機はBTL*回路方式を採用していますので、スピーカーの接続は必ずこの取付説明書の通りにしてください。

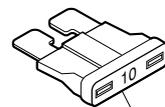
既設のスピーカーコードを利用するとき、左右のスピーカーコードの^{マイナス}側が車の金属部に接続されていたり、^{プラス}側同士が接続されていると故障の原因となります。

バランスド トランスフォーマーレス
*BTL：Balanced Transformerlessの略

2組でパワーアンプを互いに逆相で駆動し、比較的低い電圧で高出力が得られる回路方式のことです。

●ヒューズの交換について

本機のヒューズは10A(アンペア)です。交換してもすぐ切れるときは、お買上げの販売店にご相談ください。また、10Aを超えるヒューズは絶対に使用しないでください。



ヒューズ(10A)

こんなときは

— 「故障かな?」と思ったら… —

修理を依頼される前に、まず次の項目をお確かめください。

それでも直らないときは故障によることが考えられますので、お買い上げの販売店、または最寄りのサービス窓口までご連絡ください。

症 状	原 因	処 置
ラジオの音が出ない。	・ カセットテープが入っている。	・ ▲(テープ取出し)ボタンを押してカセットテープを取出す。
音が小さい、音質が良くない。 音がとぎれる。(テープ)	・ ヘッド部が汚れている。	・ ヘッドクリーナーで定期的に清掃する。
ラジオがうまく受信できない。	・ 車両のオートアンテナに電源が供給されていない。	・ 本機の リモート出力 コードを車両のオートアンテナに接続する。
	・ アンテナが接続されていない。	・ アンテナを正しく接続する。
どのボタンを押しても正しく動作しない。	・ 雑音などの影響で内蔵のマイコンが誤動作しているため。	・ SEL ボタンと ⏻/ (電源)/ ATT ボタンを同時に2秒以上押してリセットする。 (時計や放送局などのメモリーが取り消され、初期状態に戻ります)

保証書とアフターサービス

●保証書の記載内容ご確認と保存について

この製品には、保証書が添付されております。

保証書はお買い上げの販売店でお渡ししますので、所定事項の記入、および記載内容をご確認いただき、大切に保存してください。

●保証期間について

保証期間は、お買い上げの日より1年間です。保証書の記載内容により、お買い上げの販売店が修理致します。

その他詳細は保証書をご覧ください。

●保証期間経過後の修理について

保証期間経過後の修理については、お買い上げの販売店にご相談ください。修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により、有料にて修理させていただきます。

●補修用性能部品の保有期間について

当社はこのカーステレオの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を製造打切り後最低6年保有しています。

この期間は通産省の指導によるものです。

●アフターサービスについてのお問い合わせ先

ご転居、ご贈答、その他アフターサービスについてご不明の点は、お買い上げの販売店、または添付の「サービス窓口案内」をご覧のうえ、最寄りのサービス窓口にご相談ください。

修理を依頼されるときは

1. まずこの取扱説明書をよくお読みのうえ、再度お調べください。
2. それでも具合の悪いときは、お買い上げの販売店に次のことをお知らせください。

・ JVC カセットレシーバー：KS-F150

・ お名前とおとこ

・ 電話番号

・ 故障の状態(詳しく)：例 テープの再生音が出ない

別売りアクセサリ

・ オートヘッドクリーナー：CK-6

・ RCA PIN コード：CN-505E(長さ0.5m)

CN-510E(長さ1m)

CN-520E(長さ2m)

主な仕様

●本機の仕様および外観は、改善のため予告なく変更することがあります。

オーディオアンプ部

- 最大出力：フロント 40W+40W(4Ω、1kHz)
リア 40W+40W(4Ω、1kHz)
- 適合インピーダンス：4Ω(4Ω～8Ωで使用可能)
- 出力端子：RCA端子(1系統)、1.0V/1kΩ
スピーカーコード(2系統、ギボシ型)

チューナー部

- アンテナ端子：外部FM/AM兼用アンテナコネクター

●FMチューナー部

- 受信周波数：76.0MHz～90.0MHz
- 実用感度：14.3dBf(1.43μV/75Ω)

●AMチューナー部

- 受信周波数：522kHz～1,629kHz
- 実用感度：27dBμ(22.4μV)

カセットプレーヤー部

- トラック方式：コンパクトカセット・ステレオ
- ワウ・フラッター：0.15% W・RMS
- 早巻き時間：約190秒(C-60)
- 周波数特性(再生)：ノーマルテープ 50Hz～14kHz
- SN比(ノーマルテープ)：52dB

電源部・その他

- 電源電圧：DC14.4V(11V～16Vで使用可能)
マイナスアース車用
- 時刻表示：12時間表示法
- 取付寸法：幅178mm×高さ50mm×奥行150mm
- 外形寸法：幅178mm×高さ50mm×奥行166mm
- 質量：約1.3kg(付属品含まず)

付属品

- ・接続コード(16ピンコネクター)…………… 1
- ・ネジ(M5×6mm)…………… 4
- ・皿ネジ(M5×6mm)…………… 4
- ・化粧プレート…………… 1

用語索引

あ行

ATT12

か行

カセットテープ20 21

現在時刻14

さ行

SCM(サウンドコントロールメモリー)13

シーク選局(自動選局)18

SSM(ストロングステーションメモリー)17

た行

道路交通情報19

は行

BTL回路方式23

プリセット選局18

ま行

マニュアル選局16

モノラル受信18

ら行

ラウドネスコントロール13

JVC

MANUFACTURED BY VICTOR COMPANY OF JAPAN, LIMITED

日本ビクター株式会社

お問い合わせ先

パーソナル&モバイルネットワークビジネスユニット

〒371-8543 群馬県前橋市大渡町一丁目10番地の1 ☎ダイヤルイン(027)254-8926